



第17回全国障害者スポーツ大会九州地区予選バスケットボール競技  
(知的) 派遣報告書

報告者

鹿児島県バスケットボール協会 審判委員会

FID担当 角智宏 豊倉和樹

# 大会参加にあたって

第17回全国障害者スポーツ大会九州地区予選バスケットボール競技（知的）への派遣許可をいただいて、今回4月8日、9日の両日に沖縄県沖縄市で行われた、本大会に参加をした。

沖縄県バスケットボール協会のみなさまをはじめ、派遣許可をいただいた、鹿児島県バスケットボール協会の審判長以下、審判員のみなさまに心から感謝申し上げます。

## 本県のFIDバスケットボールへの取り組み

FID（知的障害）バスケットボールは、まだまだ認知度としては低いですが、2020年の全国障害者スポーツ大会の際には、正式競技となっている。鹿児島県では、全国に先駆けて、2015年4月より審判委員会の中に、FID担当を設置し、鹿児島県内へのFIDバスケットボール競技の普及はもちろん、九州内へのFIDバスケットボール競技への理解啓発活動にも力を入れている。またチーム（鹿児島BALDERS）とともに活動をすることにより、日頃から障がいに対する理解と、選手のルールへの理解の浸透を意識している。

## 担当ゲーム総評

4月8日（土）女子予選リーグ第2試合

鹿児島県（鹿児島BALDERS）31対89 沖縄県

主審 角智宏（鹿児島県）



3位決定戦の様子

副審 又吉太郎（沖縄県）

昨年準優勝の沖縄県が、初出場の鹿児島県を圧倒した。鹿児島県は創部1年目で初めての九州大会ということもあり、力の差はあったが、最後まで諦めない姿勢にはとても好感が持てた。ゲームの反省としては、捉えようと動きすぎて、本来見るべきポジションがおろそかになった場面があった。また、手の使い方において、もう少しシビアに切るべきであったと反省した。合わせてオフィシャルの管理の面で、24秒の取り扱いをもう少し丁寧に行うべきであったと感じた。24秒と14秒の取り扱いをオフィシャルに任せてしまう場面があったので、今後の審判活動で改善をしたいと思う。

4月9日（日）男子3位決定戦

鹿児島県（鹿児島BALDERS）67対34 沖縄県

主審 島袋晋也（沖縄県）

副審 豊倉和樹（鹿児島県）

前半から緊迫したゲーム展開であったが、昨日の角が担当したゲームの反省も生かし、豊倉氏はショットクロックの管理、抜き際の手の使い方など細かい点までジャッジが行き届いていた印象を受けた。最終スコアを見ると離れた印象を受けるが、ゲーム自体は審判のジャッジの面からのサポートもあり、引き締まったゲームだった印象を受けた。昨日に引き続き24秒のリセットミスなどが多少はあったが、両審判共に確認ができていたので、特に問題は感じなかった。